



シリーズ 第7回

# 産学公連携コーディネータに聞く

中小企業の技術開発や製品開発の過程でさまざまなサポートをする都産技研の「産学公連携コーディネータ」。日頃受ける相談や、サポート内容の実際をご紹介します。

**Profile**

2006年着任。1967年に入都、東京都経済局 工業奨励館に配属。その後、東京都立工業技術センター(現・都産技研)、東京都城東地域中小企業振興センター(現・城東支所)、都立産業技術研究所(現・都産技研)、東京都多摩中小企業振興センターを経て、2005年退職。仁平技術士事務所を開設、企業における技術開発の推進、若手技術者育成等に携わる。多摩テクノプラザのワイドキャリアスタッフ兼務。専門は鉄鋼材料を中心とした熱処理および表面硬化技術。

**仁平CDの担当曜日  
毎週水曜日9時～17時**

仁平 宣弘 コーディネータ 本部

## 中小企業の抱える課題を踏まえつつ、 技術者としての経験を生かしてコーディネート

約40年間、都産技研の研究者として研究・試験、技術指導を行ってきたため「都産技研のCD(コーディネータ)であり、技術者である」との意識を私は常に持っています。ですから、お客様からご相談があったときには、「技術相談」として解決できるか、都産技研の依頼試験やオーダーメード事業などを利用すべきかを、十分に吟味するようにしています。

中小企業の中には、人材や資金の不足という課題を抱える企業もありますので、負担を最小限に抑えることが重要です。技術相談は無料ですし、都産技研の機器利用や依頼試験などは安価ですので、負担を少なくできます。

他府県の公設試験研究機関(公設試)の設備や技術シーズを活用する産公連携を検討し、さらに必要と思われる場合には、研究員時代に培った人脈を最大限に活用して企業との

産産連携、大学などの産学連携を模索する、というのが私のスタイルです。企業の経営者、公設試の研究員、大学教授など、多くの方々と出会い、顔見知りになったことが、現在の産学公連携コーディネータの仕事をする上で強みになっていると感じています。

産学公連携コーディネータとして多くの相談を受ける中で思うのは、中小企業の皆さんにはどんどん外へ情報を取に行ってほしいということです。展示会への出展や異業種交流会への参加もその一つです。いろいろな情報を得ることで、他社との連携を図るきっかけができますし、自社の持つ技術のレベルを知ってアピールすることもでき、また技術や事業の開発のヒントを得る機会にもつながります。今後は、このようなアドバイスも行っていきたいと考えています。

### ●事例紹介 【産連携・産公連携の例】「電磁シールド機能を備えた異方性高放熱シートの開発」

江戸川区役所の紹介を経て、平成21年7月に来所した有限会社アイレックスから「紙や布に銅またはニッケルめっきを施し、多機能放熱シートを製造したい」という相談を受け、支援を開始。さらに純正化学株式会社の商品化開発の参画により仁平CDがめっき企業の協力(産連携)、都産技研による特性評価(産公連携)をコーディネートし、4者が協力して開発を行った結果、製品化に成功しました。現在ではこの技術をさらに発展させ、セルロースのパウダーやファイバー(繊維)などへニッケルめっきを施す試作実験と商品化開発を行っています。

**相談→共同研究までの経緯**

- 平成22年 6月 めっき企業の協力のもと、布地へめっきを施す試作を開始。
- 平成22年 11月 都産技研 エレクトロニクスグループ(現 電子半導体技術グループ)にて放熱シートのノイズシールド評価(オーダーメード開発支援)。
- 平成23年 2月 都産技研 材料技術グループにて熱拡散率を評価(オーダーメード開発支援)。
- 平成24年 6月 展示会にて、放熱シート「Jims 3D」(販売:純正化学株式会社)、めっきしたセルロースパウダーとファイバーを出したところ、大手企業から試作の依頼。
- 平成24年 12月 めっき企業の協力のもと、セルロースパウダーなどへのめっき試作を開始。
- 平成25年 7月 導電性素材・導電性複合体等およびその製造方法を含めた特許取得。

**仁平 CD** 産連携、産公連携の実現はもちろん、都産技研の設備を有効利用して商品化に成功、さらに新しい技術開発を行った特筆すべき事例です。

### Message 中小企業の皆さんへ



新製品を開発したい、新事業を始めたい、でもどうしていいかわからない、というときは、まず産学公連携コーディネータにご相談ください。都産技研は敷居が高くて入りにくいと思われるかもしれません、実際にはそんなことはありません。「こんなこと相談してもいいのかな?」と思われるようなことでもお聞きしますし、親身になって課題解決をお手伝いします。都産技研で培われた人との出会いは、新しい課題が生じたときの人脈として必ず生かされると思いますので、ぜひご利用ください。